

移住コンシェルジュの ぶらり鹿角散策 Vol.4



松館天満宮三台山獅子大権現舞

松館天満宮三台山獅子大権現舞とは

※1300年(平安2年)京都から菅原道真公の分霊を迎え入れる際に舞い納めたのが起源とされています。その後、大正時代の前後に一時途絶えつつありましたが、昭和12年に現在のような舞楽として再興されました。この舞は、毎年4月25日の松館菅原神社例祭の際に、奉納されます。

舞人や楽人は、山伏の修行の姿である白装束を着用し、一年の五穀豊穡と悪疫退散を祈り、7つの舞が奉納されます。神樂の奉納の後、当年の作占いの「お湯立て」の神事が奉納されます。

八幡平松館地区

松館地区は、市の南西部に位置し、戸数約50戸、住民約200人の農村集落です。舞楽の保存や伝承強化を図るため、平成13年に保存会が結成され、現在集落内の40代から70代の約20人の会員がいます。



松館天満宮保存会の皆さんが練習している様子を見学しました。

この日は初日ということもあり、約1年ぶりの舞や楽器の演奏を、入念に確認しながら進めていきました。印象的だったのは、練習前や舞を始める前に、獅子へ二礼・二拍手・一礼していたことで、神聖な行事であることを実感しました。

舞や演奏は代々口頭伝承する間、驚きました。滅多にない機会なので、私たちコンシェルジュも笛の吹き方を教えてもらいました。

また、練習後の反省会では、年齢差がある会員同士が、楽しく舞や笛について話し合っており、メンバーの結束力の高さを感じました。練習場には、2回お邪魔させていただきましたが、皆さんとても優しく迎え入れてくれました。

下川原駒踊り

下川原駒踊りとは

正しい起源は定かではないようですが、佐藤近江が三河(愛知)から高屋館に移り住んだ際に伝えられたとされており、花輪下川原地区の稲荷神社の宵宮で、毎年4月19日に豊作を祈願し奉納されます。戦後に、一度途絶えましたが、昭和45年に保存会が結成され、復活しました。「駒踊り」の名の通り、男性が騎馬にまたがって、勇壮に跳ね回り、女性は優雅な踊りを奉納します。佐藤近江の家紋である「丸に隅立四つ目」が、幕の紋・旗・衣装に用いられているのが印象的でした。

今回は、4月に行われた市指定無形民俗文化財「下川原駒踊り」と秋田県指定無形民俗文化財「松館天満宮三台山獅子大権現舞」の2つの地域行事を紹介しました。

当日だけでなく、練習風景を見たり、地域の方と交流したりすることで、伝統行事をぐっと身近に感じました。

駒踊りにかけるそれぞれの想い
駒踊りの準備の一つである、しめ縄作りをしていた老人会の方に聞きました。

「70年前ぐらいに途絶えてしまいうそうになりながらも、復活・継続させられたことに安堵しました。それでも、もっと詳しく聞いて、詳細に残しておければよかったですと思っています。これからもみんなで手をかけて、若い人に覚えてもらい、続けていってほしいと思います」



奴舞の女の子たちに駒踊りの楽しみを聞きました。「浴衣が着られるのが嬉しい。終わった後のジュースパーティーが楽しみです」



地域行事に参加して

勝又コンシェルジュ

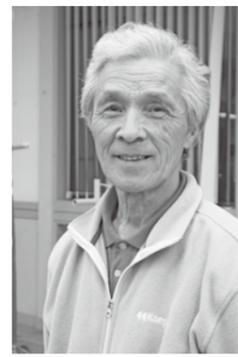
松館天満宮の権現舞が本当にカッコイイです。片手で獅子の頭を高く挙げ、歯を打ち鳴らす音の迫力と尾絡み役との息の合った舞が見る人を夢中にさせます。

菅原コンシェルジュ

「男性は賑やかで勇壮に、女性性はしなやかに美しく」と語られる駒踊り。その通り、衣装は暗がりの中でも照明をうけて鈴の音色と共に華麗な色が飛び跳ねていたように感じました。舞の際に歌が歌われる曲があり、その歌詞の中で、「笑顔で働くセーセ」が耳に強く残っています。歌詞の通り、踊子の表情がまさに笑顔で、楽しみながら舞



駒踊り保存会会長の佐藤実さんから一言いただきました。「下川原の行事は運動会や虫送り、オジナオバナなどもありますが、誇りある、この駒踊りを今後も大切に保存し、伝承し続けていきたいです。子どもたちが楽しいと思ってくれることがなにより嬉しく思います」



を披露していたことが印象深いです。

南雲コンシェルジュ

駒踊りの色鮮やかな女性の衣装と、馬上を再現した男性が円になり踊るさまは、感動の一言でした。迫力があり、人を引き付ける魅力のある伝統行事だと思います。

松館では、菅原神社まで1列で歩いて行く際に、一緒に歩かせていただき、感動と心の落ち着きを感じました。歩いている私でも迫力を感じたので、きっと見学に来ていた方々も、1列で歩いてくる舞人や楽人の姿に感動と迫力をおぼえたのではと思います。

地域で根強く伝承される行事には、それぞれ伝統を絶やすまいという強い思いがあることを、参加することで実感しました。そして、何よりも、行事を地域で心から楽しんでいっているのにはないかと思えます。ぜひ、皆さんも各地域の行事を見に行ってみてください。